

七 「お洒落のご馳走」をお届けしたい（技術以外）

【世界一のカシミアニット企業を目指して】

種目別の金メダルを目指す

カシミアニットならUTOと、世界中から認められるメーカーを目指しています。そもそも世界から認められるカシミアニットというのは何だろう？ニット事業での順位付けなんてありませんので、多くの同業者やお客様からこの分野では、世界で唯一とか世界で一番だと認めて頂けることだと思っています。

世界中のニット企業が、ウールやコットンをはじめとする天然素材や化学繊維などの数多くの種類のニットを生産する中で、あくまでもファッションブルなニットの分野での範囲ですが、カシミアに特化している企業は本当に稀です。

モンゴルや中国のメーカーのように同じ形のニットを年間何十万枚の生産をする衣料品系の会社がありますが、UTOは量や額で世界を目指すことはありません。

オリンピックの種目別で言うと、UTOカシミアの出場種目は、「世界最高峰のカシミア原料を使用し」、世界でも稀な、「お客様の好きな色で希望のサイズのカスタムオーダーで一枚一枚お作りします」という混合種目の部門です。たぶんこの部門では世界中でも殆ど競合がない部門です。

UTOが使用してる世界トップクラスの原料とは、原毛の色、繊維長・うぶ毛の長さ、細さ、引っ張り、摩擦、曲げ、伸び率、糸均整度、編立、縮絨、型崩れ。繊維長40ミリ弱、有色繊維数、刺毛含有率、フケ、植物夾雑物含有率、対洗濯性、ピリング性、摩擦強度、編み目の奇麗さ、対光堅牢度、染色堅牢度、等々……。紡績の門外漢のものからしたら気が遠くなるほどの多くの専門的なハードルをクリアし、世界のカシミアのプロたちが認め世界の有名ラグジュアリーブランドが使用している原料と同等以上と認める世界トップクラスの原料です。

またそれにもまして、UTOカシミアが評価されているのがカシミアニットのカスタムオーダーです。「あなたの好きなサイズ色でお作りします」というカスタムオーダーができるのは、ニット業界では世界の非常識で世界でもオンリーワン企業と言えます。

【天然素材へのこだわり】

持続可能で地球に優しいもの作り

天然素材は地球環境にもやさしいもの作りが出来ると思っています。

1992年の創業当時、まだSGDsという言葉が無かった頃から、天然素材を使ってもの作りをしてきました。天然から供給される素材が好きだし、自然と共存しながら原料を生産する人達に少しでも役に立てればと思っっているからです。

会社を始めた当初、精一杯背伸びしてウールをはじめ、アルパカ、モヘア、コットン、麻、シルクと、多く品揃えをしているんな素材を扱うことが出来ることをアピールしましたが、各々の素材は奥が深く自分では満足できませんでした。結果残ったのは敗北感と在庫で、結局独立以前に在籍していた会社のミニ版に過ぎず魅力に欠けるんです。

頑張っただけでやっけているつもりで素材の品目が増えるのは『売るためには沢山の品揃えをしないと不安』が原因だと気づき、『何でも有りますは、結局何にもない』ということをもっと体験することになりました。

どうせやるなら自分が好きで自信を持てる素材、ニット屋になって以来魅せられ、究極の天然素材と言えるカシミヤに絞り込んでやっついこうと決めました。好きなカシミヤでだめだったら悔いは残らない。カシミヤでダメな時はきっぱりとニットは諦めようと決断したとたんに重く覆っていた雲が晴れるような心境でした。もちろん絞り込むことでハンディを負うことも確かですが、新参者で才能のない自分が人様に伍していくにはこれしかない選択だったと思います。

UTOがすべての製品を成形ニットにするのも限りある資源を大事に使いつかこの糸を無駄にしたくないという拘りがあるからです。

【色々な色の天使のストール】

『なんともならないロット違いの糸を何とかしたい』で出来た傑作

おおよそですが、レディースのセーターは250g、メンズで300g前後。もちろんサイズや着丈などで大きく変わります。12ゲージというのが普通の厚さのセーターですが、7ゲージや5ゲージとなるともつと重くなります。あくまでも目安です。

糸を購入する最小の単位が1kg。これはカシミヤの糸に限らずウールやコットンなどの素材も1kg巻き（コーンと呼んでいます）です。

売るほうも買うほうも必ずチェックするのが『ロット』です。ロットとは糸を作った（紡績した）、単位とかひとくくりのことで、糸には必ず紡績のロットナンバーが記載されています。このロットナンバーを合わせないと大変なことになってしまいます。

ウールやコットン糸などは基本的には染めたときのロットが重要ですが、カシミヤの場合はワタで染めてから（トップ染め）紡績しますので紡績したときのロットが最終ロットです。

カシミヤのように高価な糸は最低30〜50キロ。大きいロットでも200キロぐらいで紡績します。このひとまとまりがロットで、ロット内での色の違いはありません。ロット違いで一番困るのが色違いで、同じ色でもロットが違っていると微妙に違うのです。糸（コーン）で見比べてみても全く解らなくて同じ色だからと油断して途中から違うロットの糸で編んでも人間の目は微妙に違うことを見分けてしまうのです。人間の目って凄いですね。

1着分300gかかるセーターを3着編むとすると、300g x 3着で900gです。この場合は1Kgで足りませんが、このコーンの糸で同じロットが終わったとき、残りの100gの糸を使って違うロットの糸と一緒にもう一着セーターを編もうとしても使えません。天使のストールも1枚120gかかるので編めません。返品も出来ません（当然です！）ので配色の一部で使うとか、小物を作るチャンスを待ちますが、小さなコーンがたまってきます。

UTOでは、ロット違いの糸のロスのコストに乘せずセーターの価格はあくまでもそのセーターにかかる実費で計算しますのでこの残糸をなんとかしなくてはなりません。最高品質の原料。1Kgが1万円もする糸。ロットが違うことで使えないとはあまりにもったいない。貴重で高価なカシミヤを何とか換金しなければと日々頭を絞って、出来たのがこの『色々な色の天使ストール』です。

小さく残った糸を、色と分量を、出来上がりを想像しながら1本の糸に繋ぎコーンに巻き上げていきます。そのときにどんな色の糸がどれくらい残っているか、どんな色の組み合わせが出来るかも楽しみます。

巻き上げた糸で天使のストールと同じに編み上げます。当然、色が途中で変わりますが、そのつなぎ目が編地の途中に出してしまいます。気にならないという人が多いのですが、UTOのボーダーや糸の切り替えの原則は『編み端』ですのでプロパー品としては出せません。

そこで『訳あり』の格安アウトレットのサービス品として販売することになっています。

(青山店・楽天シヨップにて年に二回程度、現品限りで販売)

「次はいつ発売ですか？」と、問い合わせを頂いたり、待っていらっしゃる方もおられるほどの人気商品です。

いろんな色の組み合わせの、世界に一枚だけの商品です。もったいないから生まれた傑作だと自画自賛しています。

【自社工場ならではのカスタムオーダー】

お願いしたすべての工場で断られ、工場を作るはめに。

結局オンリーワン企業に

前にもお話しましたが、製品の良し悪しやブランドの信頼は「原材料と、もの作り」で決まると信じています。卸売りで創業した時から将来は、製販一体という企画・製造・販売が目標でしたので、自分たちのブランドとして納得のいく物づくりは必須でした。

新参者で規模の小さいアパレルのオーダーはロットも小さく工場さんに相手にもしてもらえませんでした。創業当時、当社に要求された生産ロットは一型最低が100枚でした。大手にとっては何でもない枚数ですが、創業間もないアパレルにとっては苦しい枚数でした。しかしニッターさんにとってはそれ以下の生産は効率が悪すぎるのです。そんな状況の中で一枚一枚作ってほしいという私の要望は業界では常識外れで、当然お願いしたすべての工場さんに断られました。

生産になぜロットが必要なのか？それはニット製造業界がアパレルから、安価で大量・早期納品という生産を求められて、その上にシーズンごとに素材やデザインが変わるファッション業界の現状に合わせる必要があります。そのためにはこれまでの分業という合理的な生産方法が必要で、ひとつの素材やデザインを深く追及し作り上げる余裕も時間もなかったのです。

カスタムオーダーで一枚一枚作ってほしいという私の希望に対して、親しいニットの製造メーカーさんの社長さんに言われたのは、「それは作家さんの芸術作品を作れということと同等で全然採算が合わないからうちだけではなく他でもきつと無理だよ」と言われてしまいました。

それでも、「大量でなくてもいいから、モノづくりを最優先に良い商品を提供したい」という思いは諦めきれず、それを実現するには自分で工場を持つしかなく無謀にも自社工場を作る羽目になってしまいました。実現した今では、実質どこもやらないオンリーワン企業になっているといえます。

【ニットは大量生産】

作り置き・売減らし・残品バーゲンの罠

大々的なショーを開催し注文を得て、作り置きしてシーズンになって売り出す。人気の商品はすぐになくなり追加生産は出来ません。売れない商品は当然バーゲンになります。ショーは新しいデザインを披露することで前年のファッションの服をあたかも「あれはもう古いので今年の商品を買ってください！」と言っているようです。

この「作り置き、売減らし、残品バーゲン」というサイクルが世界のファッションビジネスの現実で、毎年新しい商品を買ってもらうことで巨大なファッションビジネスは維持されてきました。

同じものを大量に作る為には半年の時間と効率よく大量に作る必要があるのです。最近では低コストと効率のいい大量生産を求めるあまりに、大量の残品が社会問題になるほどです。

物が乏しかった時代の大量生産大量消費は社会に貢献したと思います。しかし物余りの時代になった今は、気に入ったものを大事に長く愛用する「量より質」の時代に入っているとと思います。

売り場にも出してもらえず廃棄される膨大な量の新品の服があると聞くと、もったいないを通り越して悲しいとさえ思います。

U T O のビジネスの基本はオーダーです。お客様のご要望でお作りするので、一着も廃棄しません。

例えサンプルも本番の最高級のカシミア原料で作ります。正規販売しないと言うだけで商品に遜色は全くありません。そのサンプルはアウトレットになった理由を書き、訳あり価格で販売しています。これこそ本来のアウトレットだと思っています。好評で待っていてくださる方もたくさんいらっしゃいます。

最高の素材を使い、職人が一枚一枚丁寧に作りお客様にお届けするのは大きな経済には貢献していなくても、S D G s の基本だと思っています。

【U T O 岩手工場のものづくり】

愛情いっぱいのももの作り

カシミアニット作りなら他に負けないと自負するところがあります。それは日本の職人のまじめさ、器用さ、丁寧さにあります。

四十年以上もこの業界にいて、日本はもちろん、香港や台湾・韓国、中国、最高峰と云われるイギリスやイタリアなどの多くの工場を訪れ、仕事をする機会に恵まれ、世界はおおよそどんなレベルかある程度は見聞することが出来たことは前職での大きな収穫でした。特にイタリアとイギリスの世界的なブランドの製品を作っている工場と仕事をする機会があり、その仕事ぶりを経験できたことは大きな自信になっています。

イタリアも英国の工場も皆さんがよく知っているヨーロッパの有名ブランドのニットを製造している工場で、モノづくりは確かでした。我田引水と言われそうですが、もの作りはもちろん商品の扱いや丁寧さはイタリアや英国のおばちゃんたちより当社岩手工場の職人の方がはるかに上だと確信しています。しかもUTOの職人たちは、毎日毎日最高級のカシミアだけを作り続けているのです。カシミアに関しての経験と熟練には群を抜いているのは当然です。

モノづくりに対する真面目さ、粘り強さ、丁寧さは、東北人の持つ独特の人間性で世界に誇れることだと思います。

【いい加減が良い加減】

ニットの寸法

セーターをはじめニットの良さの最たるものは着心地の良さですね。それはニットの特徴であるループによる編地の伸び縮みにあります。

織物は縦糸に横糸を織り込んでいくので横にも縦にも伸びませぬ。この織地の組織によつて服は安定して形が崩れないんですね。

一方、ニットは編地がループなので体の動きに合わせて伸びたり縮んだりしますからとっても着心地が良いんですが、この着心地が良い利点が厄介な問題も持っているんです。それは寸法が定まりにくいということです。

UTOは『お客様の希望の寸法で作ります』というセミオーダーが大きな特徴の一つですが、これは大変なリスクなのです。

当社ウェブサイトの販売ページに製品の基本サイズが明記してあります。但し書きに三

パーセント前後の違いはご容赦くださいとお願いしていますが、伸び縮みするニットを一枚個別に作って指定通りに収めるのは至難の業なのです。

一般のニットは殆どが量産で、サイズ出しの仕上げはサイズ通りの寸法の型枠にはめて熱い蒸気を当ててサイズを固定させるのが普通です。

当社は編んだ通りのサイズ出しにこだわっていますので、セーター用の型枠はありません。

セーターを編む時には、何センチの中にどれだけの針本数（目立）で、何センチの丈に對して何回編むというのを設計図（回数書）の通りに編みます。基本的にはデジタルな方法なんです。

その上、カシミアニットは編みあがった時の寸法と、最終のサイズが違います。

カシミアニットの仕上げは縮絨という加工で風合いを出しますが、その縮絨の過程である程度の縮みが生じますのでお客様のサイズに上げるためには、その縮み具合を計算して編み立てるのです。

カスタムオーダーですので、お客様お一人一人の型ごとに指示書を作りますので大変な作業ですが、その指示書に従って、例えば2センチ巾を出すときには2センチ分の針立てを増やし、5センチ短くする時には5センチ分の編み回数を減らして編むことになります。変更している個所の針数なり回数が変更になっているのは当然ですが、目数や回数は正確でも最終の中や丈がそのまま出ないで微妙に違うことがあるんです。と言うよりちょっとした発生します。そこを長年の経験で微妙に調整しながら作り上げるのです。それこそ『作り上げる』という表現がピッタリだと思います。

このように微妙な差が生じるカシミアニットですので、元の糸がとても重要です。同じ番手の糸で編んでも紡績会社の違いで寸法の違いが生じます。その違いは原料の違いや撚りの回数などは紡績会社ごとに違いますので、U T Oカシミアはずっと同じ会社の同じ番手のカシミア糸を使い続けることになります。

伸び縮みが特徴のニットですので、測る毎に、測る人ごとに誤差が出る場合があります。プロにとっては常識ですが、色の濃淡による違いから来る乱寸もあります。

『グレードの高いファッション製品だからミリ単位の細心の厳しさが当然でセンチ単位の違いが出るなんて理解できない』、と言われる方も少なくありません。特に布帛の専門家に多いようです。でもそのニットのいい加減なところが実は良いところなんです。

皆さんの着ているセーターを横に引っ張ったら何センチになりますか？多分30%ぐらいは簡単に伸びるでしょうしその反動で丈が10%ぐらい短くなってしまいます。このくらいニットはいい加減なんです。

ヨーロッパなどからセーターを輸入する場合、同じ品番の同じサイズの同じ色でも3

パーセントの乱寸のクレームは受け付けない、と最初から契約書に書かれています。だからと言って少々の違いは当然と言っているのでは決してありません。

まず、『ニットとはいい加減なもので、だからこそ良い加減』の着心地になることをどうぞご理解ください。なにせ、ニットは『莫大小』って言うんですから。